

Denka

Possibility
of
chemistry

2022年度 決算説明会資料 (2023年3月期)

証券コード：4061

デンカ株式会社

2023年5月11日

1 2022年度（2023年3月期）決算概要

① 連結サマリー	（前年比・2月予想比）	03
② 営業利益 増減要因	（前年比）	04
③ セグメント別内訳	（ " ）	05
④ セグメント別増減要因	（ " ）	06-09
⑤ セグメント別内訳	（2月予想比）	10

2 2023年度（2024年3月期）業績予想

① 連結サマリー	（前年比）	12
② 営業利益 増減要因	（ " ）	13
③ セグメント別内訳	（ " ）	14
④ セグメント別増減要因	（ " ）	15-20
⑤ セグメント別ROIC		21
⑥ セグメント別投資・償却費・研究費		22
⑦ 株主還元・ROE		23
（参考）四半期推移（セグメント別）		24

2022年度(2023年3月期) 決算概要

■ 前年比減益（2月予想並み） セメント撤退に伴う特損177億円、政策保有株売却益50億円を計上

単位：億円	2021年度 実績	2022年度 実績	(前年比)	2022年度 2月予想	2月予想比
売上高	3,848	4,076	+ 227	4,100	△ 24
営業利益	401	323	△ 78	330	△ 7
営業利益率	10.4%	7.9%	△ 2.5%	8.0%	△ 0.1%
経常利益	365	280	△ 84	290	△ 10
純利益	260	128 ※	△ 132	120	+ 8
為替レート (円 / \$)	112.1 上期 109.9 下期 114.2	135.1 上期 131.6 下期 138.6		134.8	
国産ナフサ (円 / Kリットル)	56,800 上期 50,800 下期 63,050	76,500 上期 82,850 下期 69,400		75,900	

※ セメント事業撤退関連の特別損失計上△177億円

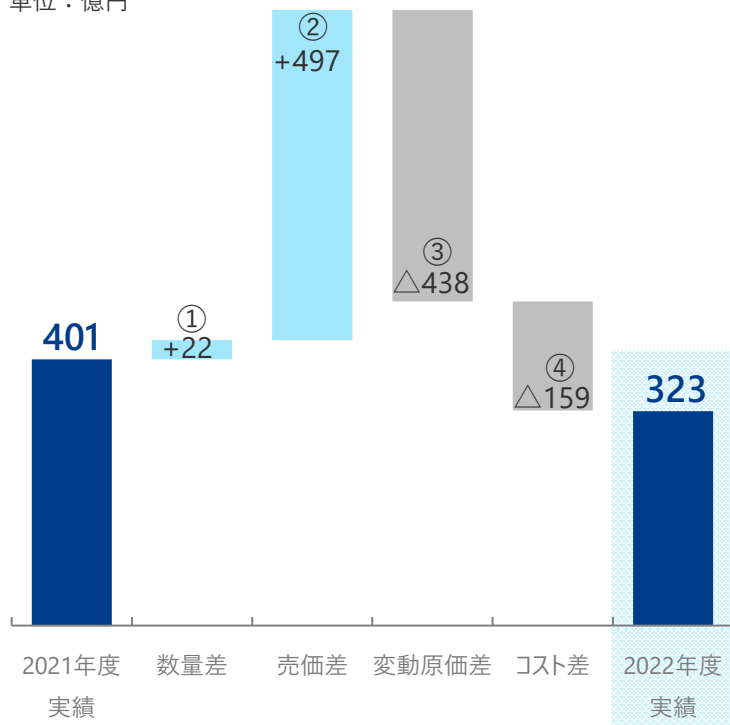
※ 政策保有株式売却益+50億円（売却に伴い、政策保有株式の純資産に占める割合9.97%へ減少）

■ 数量差プラスと原燃料価格上昇に伴う値上げ効果も、コスト差のマイナスが大きく、減益

営業利益 **323億円** 前年比 $\triangle 78$ 億円

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



①数量差 :

(プラス)

新型コロナウイルス検査キット：第7波・第8波流行により需要拡大

インフルエンザワクチン：原液新棟稼働による増産効果

(マイナス)

半導体関連・機能樹脂：民生（スマホ・TV・PC・家電）向けは中国市場での景気減速

クロロプレンゴム：産業、接着材、自動車などの各用途で需要が減少

②売価差 : (為替影響 + 291含む)

(プラス)

アセチレンブラック：製品価値に見合った大幅な価格改定

クロロプレンゴム、スチレン系製品等：原燃料価格上昇に対応した価格改定

(マイナス)

新型コロナウイルス検査キット：保険点数引き下げによる価格下落

③変動原価差：(為替影響△207含む)

原燃料価格上昇、他

④コスト差

増産体制構築や販売体制強化による費用増加、

上期にスチレンモノマープラントの定期修繕（今回は2018年に実施）

販売物流コストの上昇、他

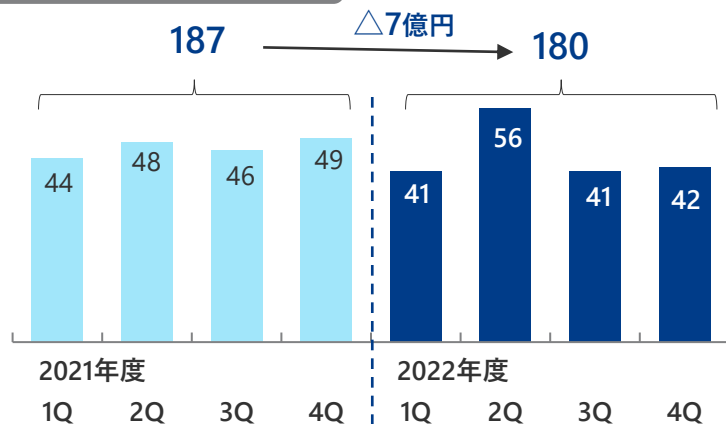
■ ポリマーソリューションが大幅減益

売上高	単位：億円	2021年度	2022年度	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ		902	935	+ 34	△ 124	+ 158
ライフソリューション		461	475	+ 14	+ 178	△ 163
エラストマー・インフラソリューション		1,069	1,238	+ 169	△ 106	+ 275
ポリマーソリューション		1,266	1,276	+ 10	△ 217	+ 227
その他 / 消去差		151	151	△ 0	△ 0	-
合計		3,848	4,076	+ 227	△ 270	+ 497

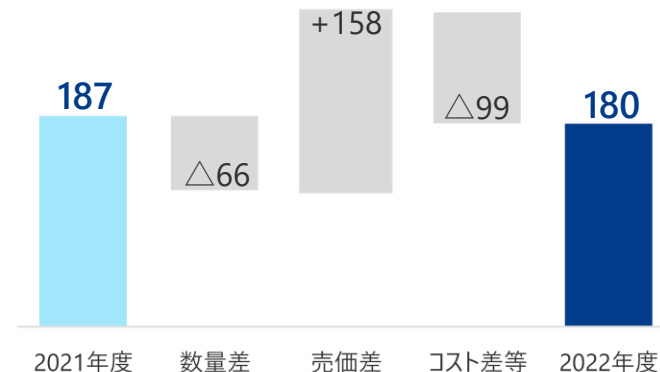
営業利益	単位：億円	2021年度	2022年度	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ		187	180	△ 7	△ 66	+ 158	△ 99
ライフソリューション		155	144	△ 11	+ 159	△ 163	△ 7
エラストマー・インフラソリューション		△ 35	△ 11	+ 24	△ 46	+ 275	△ 206
ポリマーソリューション		79	△ 12	△ 91	△ 38	+ 227	△ 281
その他 / 消去差		15	23	+ 8	+ 12	-	△ 5
合計		401	323	△ 78	+ 22	+ 497	△ 597

■ アセチレンブラック価格改定効果も、 3Qに更に悪化した民生（スマホ・PC・家電）向け需要が、4Qにも継続し減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)



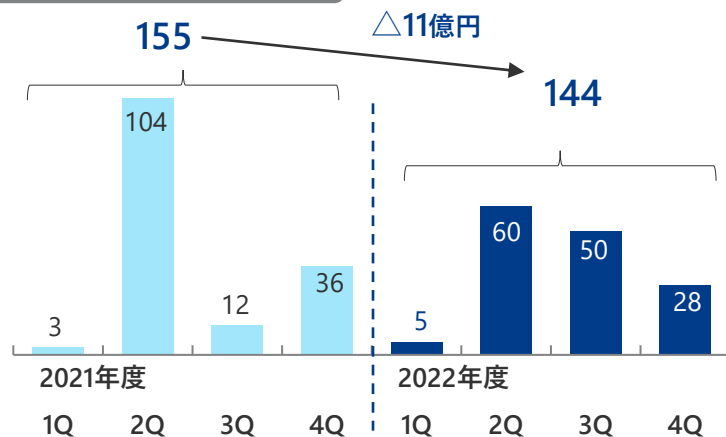
単位：億円

製品別販売動向・コスト

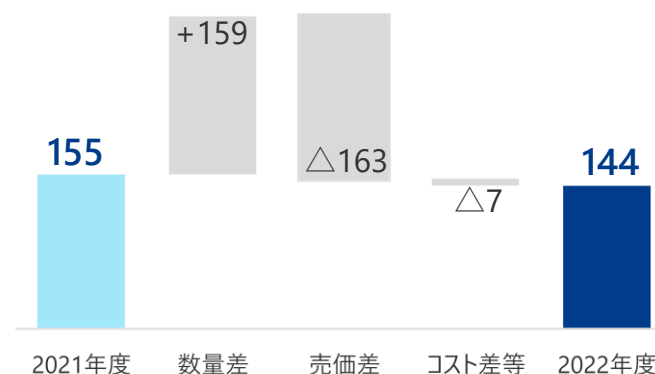
- 球状アルミナ
 - 1Qに悪化したxEV向けが2Q以降に回復基調も、3Qに更に悪化した民生（スマホ・PC・家電）向け需要が、4Qにも継続し、出荷が前年を下回る
- 球状シリカ
 - 上期は民生（スマホ・PC・家電）向けの低調を、車載向けの回復で補うも、3Qに更に悪化した民生向け需要が、4Qにも継続し、出荷が前年を下回る
- 高機能フィルム
- アセチレンブラック
 - 高圧ケーブル向けは、昨年度に引き続き堅調
 - 1Qに悪化したxEV向けが2Q以降に回復基調となり、概ね前年並みの出荷
 - 製品価値に見合った価格改定により、販売価格が大幅に上昇
- セラミックス基板（窒化珪素、窒化アルミ）
 - 電鉄向けは、昨年度に引き続き需要が低調
 - 1Qに悪化したxEV関連が2Q以降に回復基調となり、前年並みの出荷
- コスト
 - 原燃料価格上昇（各製品価格対応）、増産体制構築や販売体制強化による費用増加

■ インフルエンザワクチンが増益も、 新型コロナ検査キットの減益（売価下落影響>数量増影響）により、減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)



単位：億円

製品別販売動向・コスト

インフルエンザワクチン

- 市場での供給量に対する消化率が前年を大幅に下回るも、原液新棟稼働による増産効果で出荷が前年を上回る

新型コロナウイルス
抗原迅速診断キット

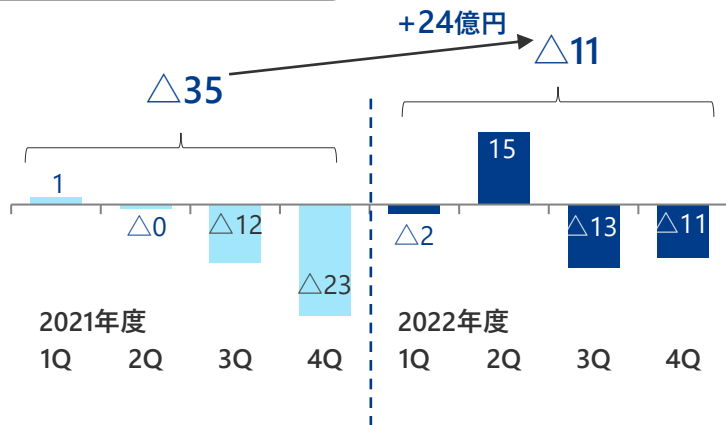
- 昨年度のような日本政府への供給はないが、国内での検査キットによる検査需要拡大に加え、第7波・第8波流行により、出荷が前年を大きく上回る
- 販売価格は、2021年12月31日の保険点数引き下げにより大幅に下落

臨床試薬
(炎症マーカー等)

- 検査需要拡大トレンドの一方、昨年中国ゼロコロナ政策における行動規制および規制緩和後の行動自粛に伴う病院検査需要減少により、出荷が前年を下回る

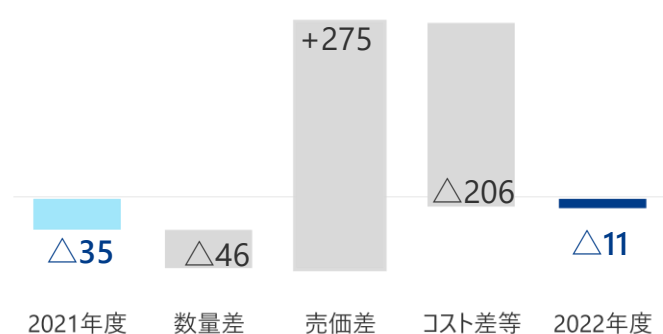
■ 石炭価格急騰によるセメントの大幅なコストアップも、クロロプレンゴムの増益（値上げ影響>需要減少影響）により、全体では収支改善

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

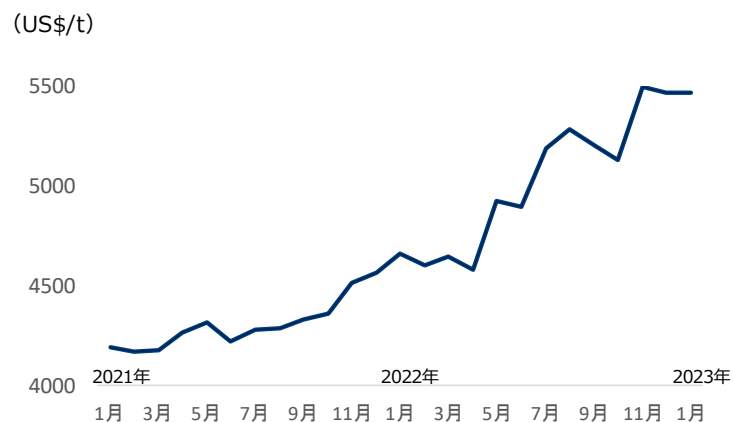
単位：億円



製品別販売動向・コスト

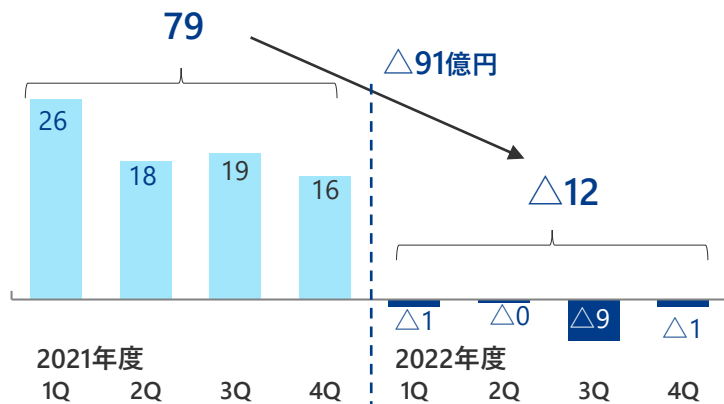
- クロロプレンゴム
 - 3Qに悪化した産業、接着材、自動車などの各用途での需要減に伴う在庫圧縮の動きが、4Qも継続し、出荷が前年を下回る
 - 原材料価格高騰に対応した値上げによりスプレッド改善
- 特殊混和材
 - 概ね前年並み
- セメント
 - 2,300円/tの値上げは概ね完了(9月末時点) 3,000円/tの追加値上げは進捗が遅れている
 - 石炭価格が急騰 (2021年度：\$ 181/t ⇒ 2022年度：\$ 356/t)

【通関統計】クロロプレンゴム（ドライ+ラテックス）輸出単価



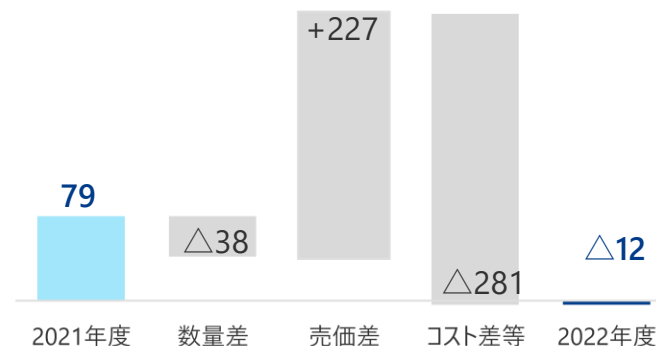
■ 原材料価格上昇に対応した価格改定により、スプレッドを維持するも、
景気悪化による需要減少、定期修繕（約15億円）・物流コスト増加により、大幅減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



製品別販売動向・コスト

- MS樹脂
 - 上期は、中国市場の景気減速の影響によるTVやPCのモニター向け導光板用途の低調を、シンガポールでの能力増強による、競合素材からの代替需要取り込みにより補う
 - 下期は、3Qに需要悪化が底を打ち、4Qに回復するも、3Qでの下落幅が大きく、通期では出荷が前年を下回る
- AS・ABS・透明樹脂など
 - 世界的な景気減速(家電向けなど)により、流通在庫圧縮の動きが高まり、出荷が前年を下回る
- 食包シート・容器
 - 出荷が前年を下回る
- Toyokalon
 - アフリカ・米国市場ともにインフレによる購買力低下が続き、出荷が前年を下回る
- コスト
 - 原材料価格上昇（価格改定によりスプレッドを維持）
 - 上期にスチレンモノマープラントでの定期修繕 約15億円（前回は2018年に実施）、販売物流コストの上昇

■ ポリマーソリューションは4Qでの需要回復が予想を下回るも、全体では概ね2月予想並み

売上高 単位：億円	2022年度 2月予想	2022年度 実績	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	950	935	△ 15	△ 15	+ 0
ライフイノベーション	500	475	△ 25	△ 28	+ 3
エラストマー・インフラソリューション	1,250	1,238	△ 12	△ 19	+ 7
ポリマーソリューション	1,250	1,276	+ 26	+ 25	+ 0
その他 / 消去差	150	151	+ 1	+ 1	-
合計	4,100	4,076	△ 24	△ 35	+ 11

営業利益 単位：億円	2022年度 2月予想	2022年度 実績	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	175	180	+ 5	+ 5	+ 0	△ 1
ライフイノベーション	140	144	+ 4	△ 7	+ 3	+ 7
エラストマー・インフラソリューション	△15	△ 11	+ 4	△ 4	+ 7	+ 1
ポリマーソリューション	10	△12	△ 22	△ 10	+ 0	△ 13
その他 / 消去差	20	23	+ 3	+ 2	-	+ 1
合計	330	323	△ 7	△ 13	+ 11	△ 4

2023年度(2024年3月期)
業績予想

■ 上期は昨年度からの低調が継続するも、下期からの回復を織り込み、営業利益は前年並みの見通し

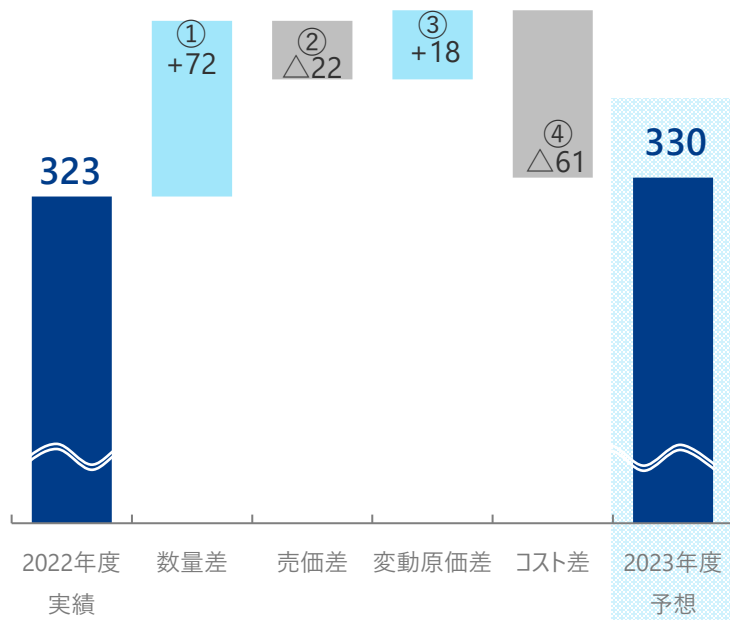
単位：億円	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	2023年度 上期予想 (4-9月)	2023年度 下期予想 (10-3月)
売上高	4,076	4,300	+ 224	2,050	2,250
営業利益	323	330	+ 7	125	205
営業利益率	7.9%	7.7%	△ 0.2%	6.1%	9.1%
経常利益	280	290	+ 10	110	180
純利益	128	220	+ 92	85	135
為替レート (円/\$)	135.1 上期 131.6 下期 138.6	130.0		130.0	130.0
国産ナフサ (円/Kリットル)	76,500 上期 82,850 下期 69,400	64,200		64,200	64,200

■ 増産体制構築によるコスト増がある中、下期からの回復に伴う数量差プラスにより、前年並みの見通し

営業利益 **330**億円 前年比 +7億円

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



①数量差 :
(プラス)

民生向け製品 (電材関連・機能樹脂) : スマホ・TV・PC・家電向け需要が回復
クロロプレンゴム : 産業・接着材・自動車の各用途で需要が回復
インフルエンザワクチン : 需要の回復、新棟での製造2年目による出荷増

②売価差 : (為替影響△55含む)
(マイナス)

スチレン系製品 : 原燃料価格下落に伴う価格改定
クロロプレンゴム : 昨年度段階的に実施した値上げのメリット (今期は価格維持の方針)

③変動原価差 : (為替影響+41含む)
原燃料価格下落、他

④コスト差
増産体制構築や販売体制強化による費用増加

■ 電子・先端プロダクツとライフイノベーションが減益も、
エラストマー・インフラソリューションとポリマーソリューションの収益が大幅に改善する見通し

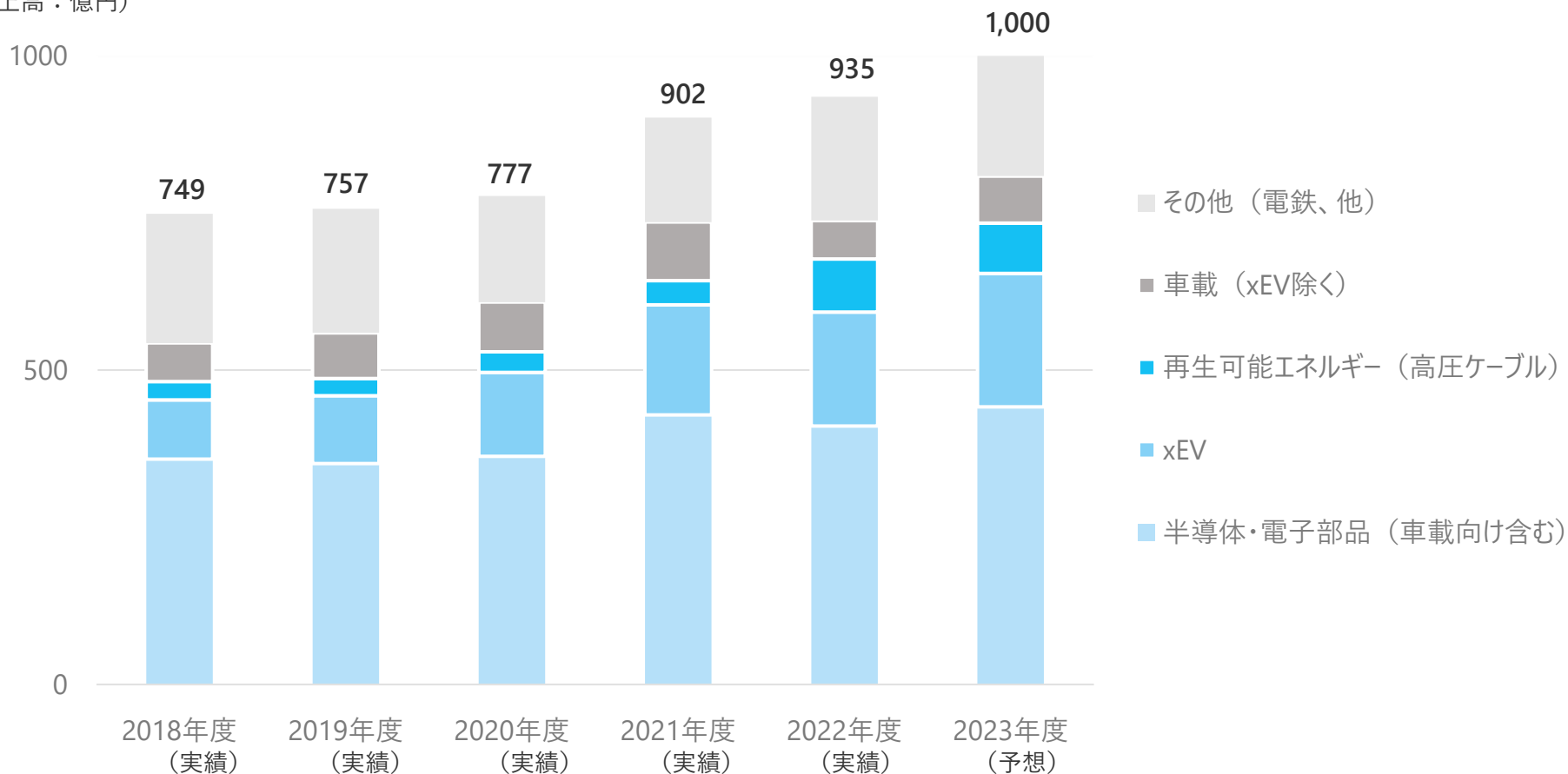
売上高 単位：億円	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	935	1,000	+ 65	+ 59	+ 6
ライフイノベーション	475	450	△ 25	△ 15	△ 10
エラストマー・インフラソリューション	1,238	1,300	+ 62	+ 11	+ 51
ポリマーソリューション	1,276	1,400	+ 124	+ 193	△ 69
その他 / 消去差	151	150	△ 1	△ 1	-
合計	4,076	4,300	+ 224	+ 247	△ 22

営業利益 単位：億円	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	180	150	△ 30	+ 36	+ 6	△ 71
ライフイノベーション	144	95	△ 49	△ 8	△ 10	△ 30
エラストマー・インフラソリューション	△ 11	25	+ 36	+ 19	+ 51	△ 34
ポリマーソリューション	△ 12	45	+ 57	+ 34	△ 69	+ 92
その他 / 消去差	23	15	△ 8	△ 8	-	-
合計	323	330	+ 7	+ 72	△ 22	△ 43

■メガトレンドである半導体、xEV、再生可能エネルギーにおいて、事業が成長

売上高用途別構成 推移

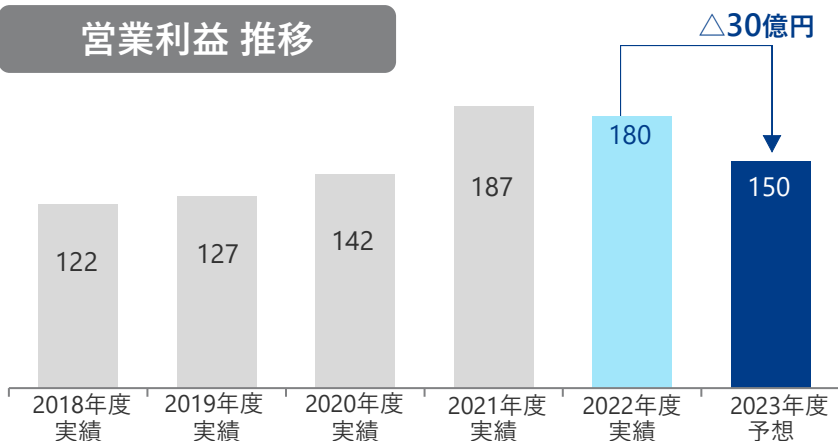
(売上高：億円)



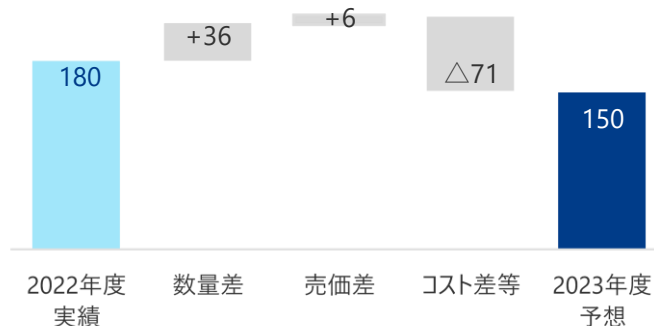
■ 民生、車載向けともに需要回復に向かうも、増産体制構築によるコスト増により、減益の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(前年比)



※コスト差：増産体制構築により、償却費・労務費・販売費などが増加

市場見通しと販売動向

(市場)	2022年度実績	2023年度予想
半導体	車載向けは4-6月低調も、7月以降徐々に回復 民生向けは上期から低調、下期以降、急落	車載向けは2023年末に向けて徐々に回復 民生向けは2Q以降の緩やかな需要回復
xEV	4-6月低調も、7月以降徐々に回復傾向	インフレ要因等のマイナス影響を受けるも、市場拡大が加速
再生可能エネルギー(高圧ケーブル)	年間を通して堅調な需要が継続	欧州大型プロジェクトの一部遅れ

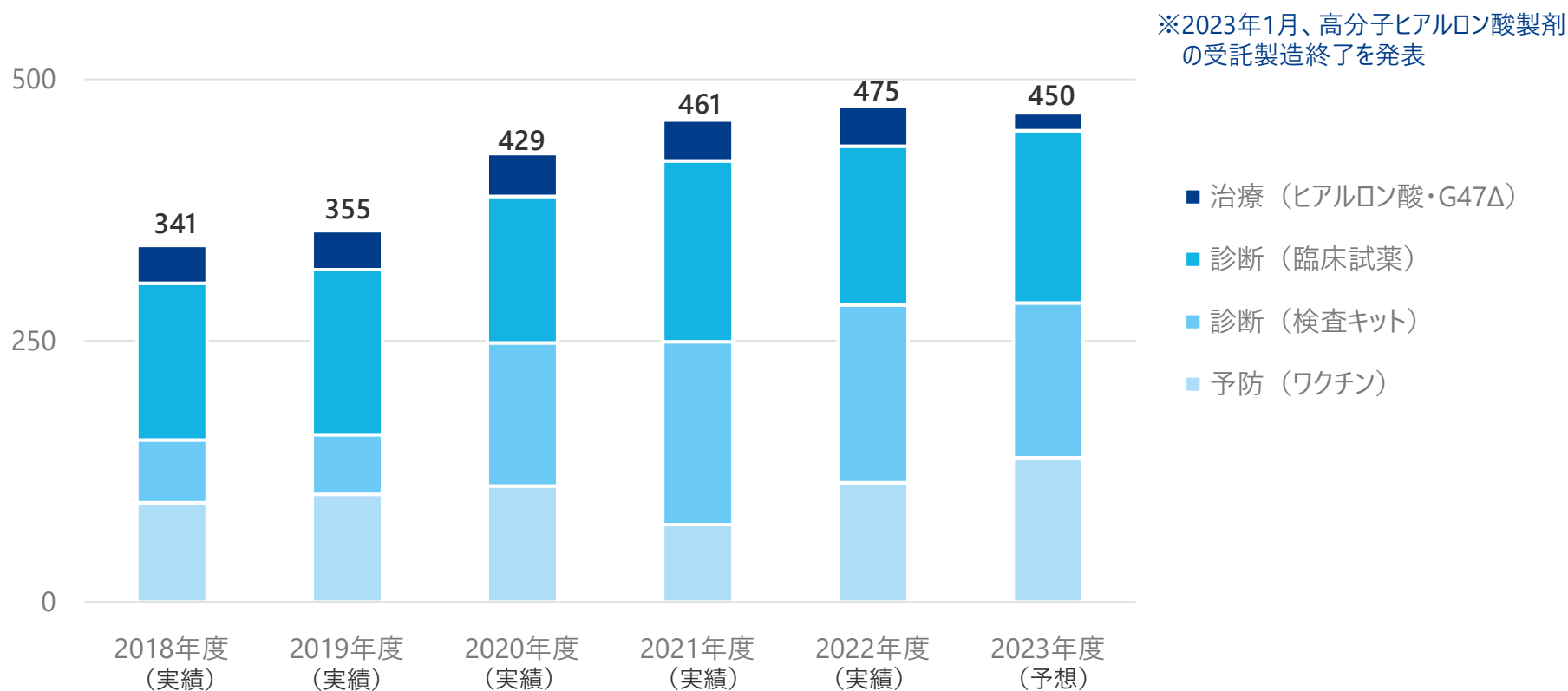
販売動向

球状シリカ	：車載、民生ともに需要が回復に向かい、出荷は前年並みの見通し
高機能フィルム	：需要回復や市中在庫の圧縮が進み、出荷が前年を上回る見通し
球状アルミナ	：xEV需要が伸長するとともに、民生需要が回復に向かい、出荷は前年を上回る見通し
セラミックス基板(窒化珪素、窒化アルミ)	：xEV需要の伸長により、上振れの見通し
アセチレンブラック	：xEV需要が伸長するも、高圧ケーブル向け出荷減少により、概ね前年並みの見通し

■ 診断分野は2023年度も需要継続、治療分野はG47Δ製剤の今後の拡大に期待

売上高用途別構成 推移

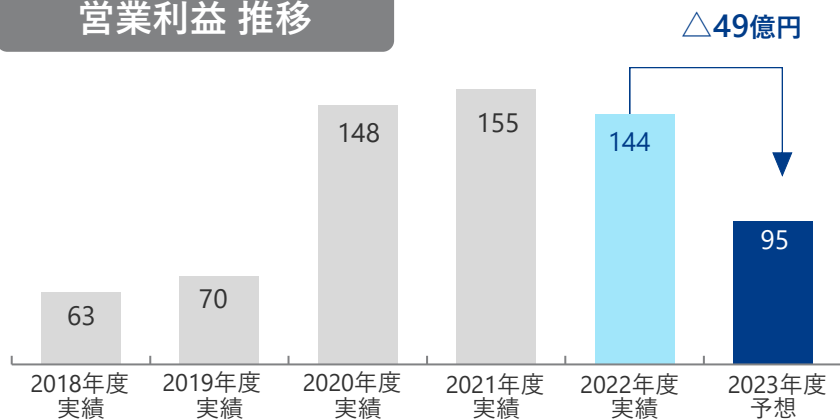
(売上高：億円)



インフルワクチンの販売増も、 新型コロナキットの販売減や、研究費増加などにより、減益の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(前年比)



※コスト差：新規事業の研究開発推進に伴う研究費増加

市場見通しと販売動向

(市場) 2022年度実績 2023年度予想

インフルエンザ	・接種数は前年比増加も、 コロナワクチンの接種時期 との重なりにより例年以下	・接種数は流行動向や、 コロナワクチンの接種回数 見直しにより、例年通りに
新型コロナウイルス	第7波・第8波流行により 国内での検査需要が拡大	・2回程度の流行を予測 ・病院検査需要は継続も、 自治体検査縮小 ・4月1日時点での保険点 数の見直しはなし

販売動向

インフルエンザ ワクチン	：製造株の今期の生産性は前年並みを見込む 接種数増加に加え、今期は、新棟稼働2年目 のため、市場への供給を1ヶ月程度早められ、 前年を上回る1,100万本の出荷を計画
新型コロナ抗原 迅速診断キット	：自治体検査市場の縮小により出荷微減を見込む 競争激化による市場価格下落のリスクを織り込み (コロナ・インフルの同時検査キット含む)

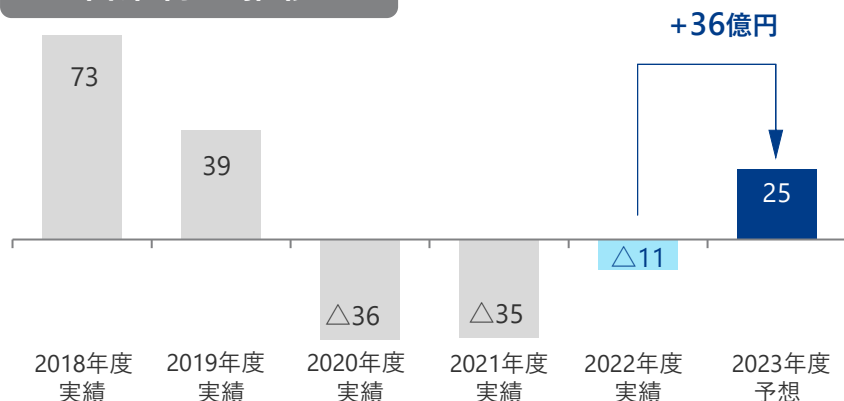
臨床試薬 (炎症マーカー等)	中国ゼロコロナ政策などにより 病院検査需要が減少	中国市場の需要回復により、 コロナ前の2019年並に
-------------------	-----------------------------	-------------------------------

臨床試薬 (炎症マーカー等)	：中国を中心とした需要回復などにより、 出荷は前年を上回る
-------------------	----------------------------------

■ クロロプレングムの需要回復、セメントの収支改善により、増益の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(前年比)



市場見通しと販売動向

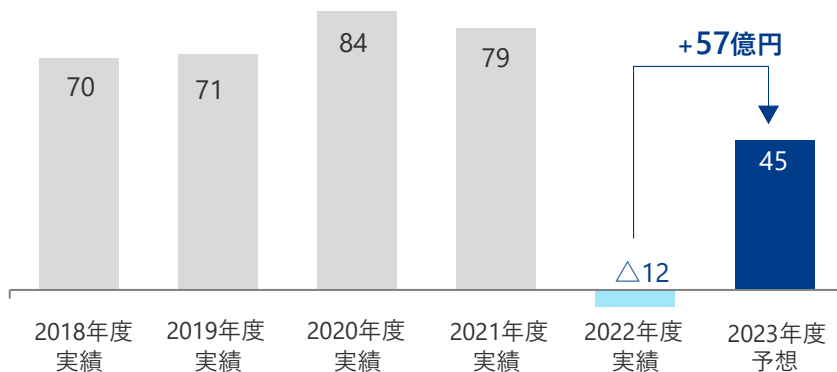
(市場)	2022年度実績	2023年度予想	販売動向
クロロプレングム	下期以降、世界的な景気減速により各用途で需要が減少	上期以降、需要が緩やかに回復 下期には22年度上期比90%水準まで回復	需要回復や市中在庫の圧縮が進み、出荷が前年を上回る見通し
特殊混和材	国内民間投資や中国でのゼロコロナ政策による需要減	国内投資（民間・政府）増や中国での需要が回復	出荷数量が前年を上回る見通し
セメント	石炭価格：356ドル/t 3,000円/tの追加値上げは進捗が遅れるも、完全決着までの道筋が見えてきている	石炭価格：209ドル/t想定 3,000円/tの追加値上げは上期より段階的に寄与	石炭価格の下落や値上げの寄与により、前年比大幅増益の見通し

※コスト差：販売費や固定費の増加、在庫影響

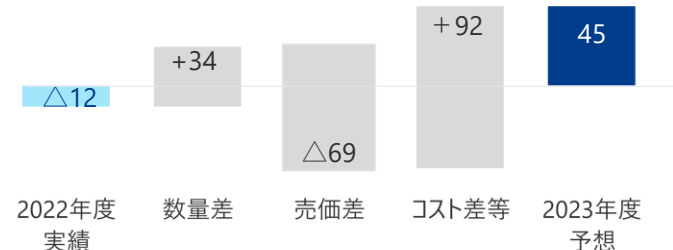
■ 需要回復、スチレンモノマープラントの非定修年によるコスト減などにより、増益の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(前年比)



市場見通しと販売動向

(市場) 2022年度実績 2023年度予想

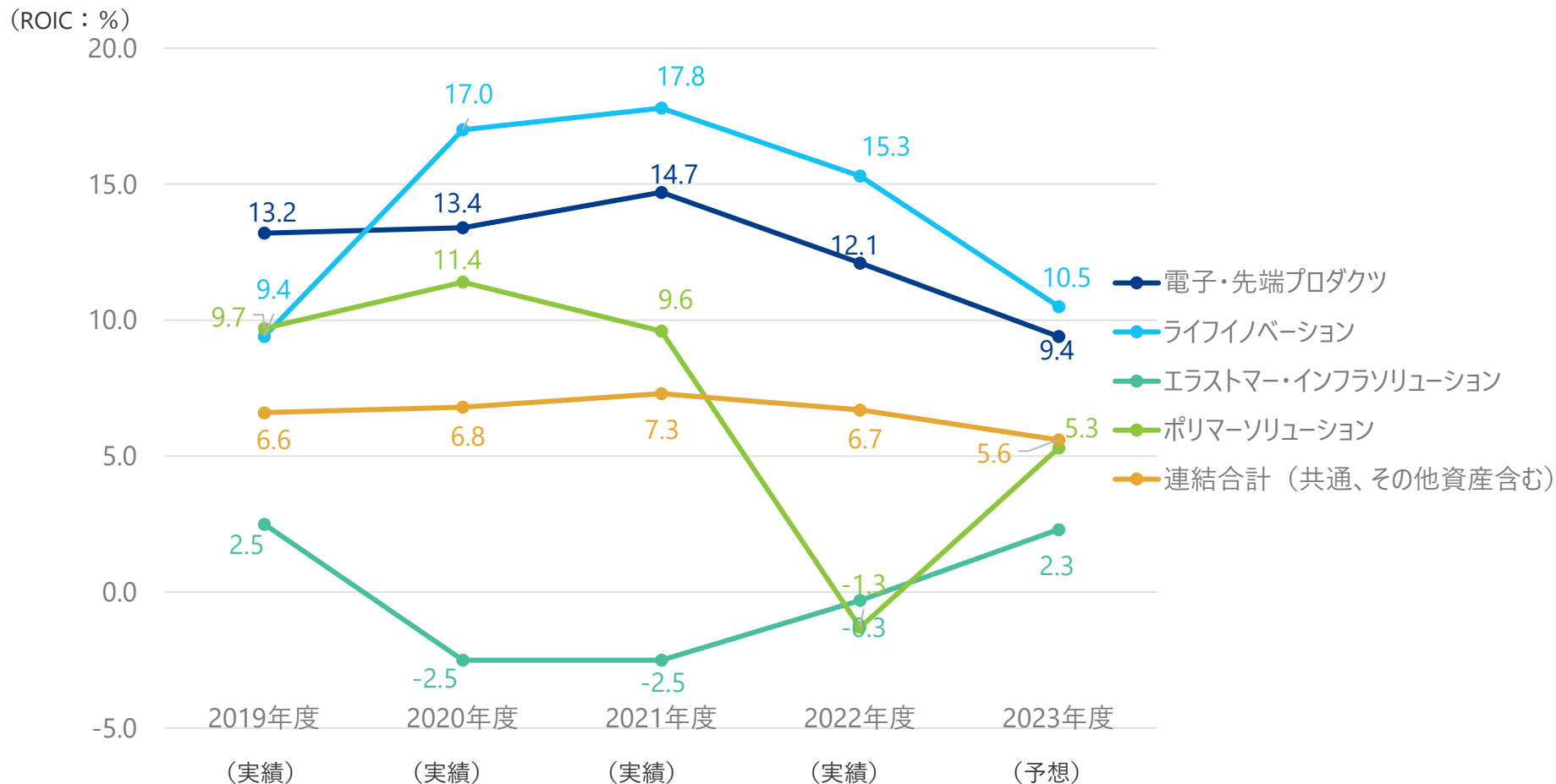
民生 (TV・PC・家電ほか)	期初より中国を中心に民生用途全般的に需要減 12月以降、導光板用途は需要回復	導光板用途の需要は堅調継続 その他の用途についても、2Q以降、需要回復
化粧品容器、雑貨など	期初より、中国市場の景気減速に伴い需要減	2Q以降、需要回復
食品容器	行動制限緩和により、中食市場の需要減	食品価格高騰に伴い、中食市場の需要増加
Toyokalon	アフリカ・米国市場ともにインフレによる需要減長期化	アフリカ・米国市場ともに需要が回復する見通し

販売動向

MS樹脂	： 導光板用途の需要回復により、出荷が前年を大きく上回る見通し (MS樹脂の製造販売会社は12月決算)
AS・ABS・透明樹脂など	： 民生や化粧品容器、雑貨などの需要が回復し、出荷が前年を大きく上回る見通し
食包シート・容器	： 出荷が前年を上回る見通し
Toyokalon	： 出荷が前年を上回る見通し

■ 注力分野の更なる成長と、ポートフォリオ変革の更なる推進により、2030年までにROIC10%以上を目指す

セグメント別ROIC 推移



■ 今後も注力分野へ経営資源を集中

セグメント別	投資				減価償却費				研究開発費			
	2022年度		2023年度		2022年度		2023年度		2022年度		2023年度	
	上期実績	通期実績	上期予想	通期予想	上期実績	通期実績	上期予想	通期予想	上期実績	通期実績	上期予想	通期予想
単位：億円												
電子・先端プロダクツ	70	187	100	200	38	80	45	90	25	49	25	50
ライフソリューション	5	25	30	70	20	41	18	40	20	38	30	60
エラストマー・インフラソリューション	48	112	45	130	50	96	45	90	17	35	15	30
ポリマーソリューション	47	70	25	70	23	48	25	50	13	27	10	20
その他 / 消去差	-	-	-	-	2	4	2	5	-	-	-	-
合計	170	394	200	470	134	270	135	275	75	149	80	160

計画区分別（投資）

Mission2030
8か年計画（投資CF）

戦略投資	156	210	3,600
ICT & Energy	114	100	800
Healthcare	11	70	800
Sustainable Living	3	10	300
環境投資	2	10	850
プロセス革新	25	20	500
その他（M&Aなど）	0	0	350
一般投資	238	260	2,100
合計（戦略＋一般）	394	470	5,700

■ 配当予想は前年比20円増配となる120円/株へ、総還元性向50%基準の方針を維持

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 通期予想
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	128	220
1株当たり配当*	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	100.0	120.0 (中間60.0 期末60.0)
配当額	(億円)	105	108	108	125	86	104
配当性向		42%	48%	47%	48%	68%	47%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	126	108	108	125	86	104
総還元性向		50%	48%	47%	48%	68%	47%
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	270	275
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	394	470
有利子負債残高	(億円)	1,121	1,343	1,382	1,370	1,697	1,770
ネットDELシオ		0.40倍	0.42倍	0.42倍	0.40倍	0.50倍	0.51倍
ROIC		7.8%	6.6%	6.8%	7.3%	6.7%	5.6%
ROE		10.3%	9.1%	8.8%	9.4%	4.4%	7.3%

売上高 単位：億円	2021年度				2022年度				2023年度予想	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期	下期
電子・先端プロダクツ	210	228	223	240	219	256	223	238	450	550
ライフソリューション	60	193	109	99	64	155	169	88	200	250
エラストマー・インフラソリューション	246	268	261	293	304	325	316	293	650	650
ポリマーソリューション	318	315	295	339	316	320	303	337	675	725
その他 / 消去差	35	40	40	37	41	29	47	34	75	75
合計	867	1,044	928	1,009	944	1,086	1,058	988	2,050	2,250

営業利益 単位：億円	2021年度				2022年度				2023年度予想	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期	下期
電子・先端プロダクツ	44	48	46	49	41	56	41	42	60	90
ライフソリューション	3	104	12	36	5	60	50	28	40	55
エラストマー・インフラソリューション	1	△0	△12	△23	△2	15	△13	△11	5	20
ポリマーソリューション	26	18	19	16	△1	△0	△9	△1	10	35
その他 / 消去差	4	5	4	2	6	4	9	4	10	5
合計	77	175	70	79	49	134	78	63	125	205

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

世界に誇れる、化学を。

Denka

本資料に関するお問い合わせ先

デ ン カ 株 式 会 社
コーポレートコミュニケーション部

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>